

第5回磁場核融合ネットワーク会合メモ(案)

日 時：1997年5月7日

場 所：核融合科学研究所 研究棟4階小会議室

出席者：佐藤、山中、後藤、伊藤、大引、高村、遠山、曄道、井上、玉野、濱田、渡利、山崎、庄司(書記)

・今日の議題はネットワーク、原子力委員会ヒアリング、NIF S共同研究についてである。 玉野

1. 原子力委員会ヒアリング

ヒアリング1週間前に文部省に内容を提出しなければならない。

NIF Sが持ち時間1時間でOHPで説明を行うことになっている。 山崎
多岐路線をなぜ進めるのか？質問に答えられるようにする必要がある。 井上

開発要素(科技厅)と基盤(文部省)が必要である。 山崎

昭和61年ではプラズマの総合的理解とは...となっている。個々の事例を挙げるべきである。 井上

強い説明が必要である。 後藤

ITERがだめであるから、多岐路線を進めるのか？ 遠山

このような理由ではポシャってしまう。 伊藤

ITER計画をさらに良くするために、多岐路線が必要である。 井上
トカマクは最も炉に近いが、将来的には他の方式の可能性があり得る。 佐藤

ITERの物理は他の方式にも役に立つ。 井上

ITERレベルの研究のステップは必要である。 藤原

ITERはうまくいかないと思う。最終的な商用炉にはなり得ない。

加熱が必要。現時点でITERを走らせるべきであろうか？ 遠山

ITERが落ち目であると、他の全ての予算がカットされてしまうだろう。 伊藤

ITERはITERなりの役割、中小規模の装置にはその役割がある。 玉野

質の高い研究ソサエティーがあるという印象を他の分野に与えるべきである。

後藤

核融合を離れて、科学としてどのような意味があるのか？という質問があった。 玉野

良い印象を与えるキーワードをつけ加えておくべきである。 佐藤

ネットワークの評価をコメントしておくべきである。 井上

ネットワークの目的と機能。プラズマ科学の項目が少ない。 佐藤

所長からの要請として、研究者数、学生数の明記があった。 山崎

科研費の延長として、ネットワークの形成をするようにすべきである。 後

藤

共通課題が浮かび上がってきた。課題を大きく見せるように強調する。 井上

ネットワークの意義を明確化する文章を入れる。炉工では踏み込んだ文章を入れている。 藤原

拠点とは何であるか？ 教官定員？ 設備？ 後藤

多岐路線が問題になるかも知れないので、多岐が今までに及ぼしてきた影響についての文章を入れるべきである。

プラズマの広い理解の上で核融合研究を進めるという形でアピールすれば良いのではないか？ 佐藤

ネットワークを研究課題の接着剤として、他の研究室と共同研究をおこなっていく方針で今後も続けていけるか？ 従来の範囲で収まり切らない研究をどう組み込んでいくか？ 藤原

新しいスタイルの研究を含ませたい。 藤原

所長はネットワークを通じて、大学の核融合研究の現状を報告することになれば良い。 藤原

視点はネットワークがどうあるべきかという事ではない。 玉野

2. LHD計画共同研究

昨年度の構想はできそうもないので、ネットワークからの要望があれば聞くことにする。 玉野

今年度行ったものに対して、相談を要するものはないか？

初年度が無駄になっても良いのか？ 伊藤

計測は選択して集中投資を行った。 濱田

平成9年度スタート分を再検討 藤原

炉工は誰がチェックするのか？ 伊藤

LHD計画共同研究委員がチェックする 藤原

新年度に新しい要望をきくことができるのか？ 玉野

今年度は無理である。

共同研究委員にはどのような知らせをしたのか？ 後藤

来年度に考慮したいと言う返事をした。昨年度走っているものを中心に
進める。 玉野

今年の秋くらいから組織換えの計画があったが...

- ・平成十年度から新しいフェーズに入る。
- ・炉工関係も新規となる。

議論しないで進めてきたのは、ネットワークとしてはまずい。

将来計画はネットワークで議論すべし。 遠山

科研費でやってきたが、ネットワークにも金をつけるべきである。 井上

炉工と一緒にやっていくのが良いのだろうか？ 佐藤

申請に関しては選択の余地がある。 玉野

個別の方がよいのではないか？ 遠山

こちらの体制をしっかりとる必要がある。 佐藤

フェーズが合っていない。こっちは議論不足である。 高村

次回の会合にはヒアリングのリアクションを報告してほしい。 佐藤

会議終了